『紅葉の摺もの』をたどる

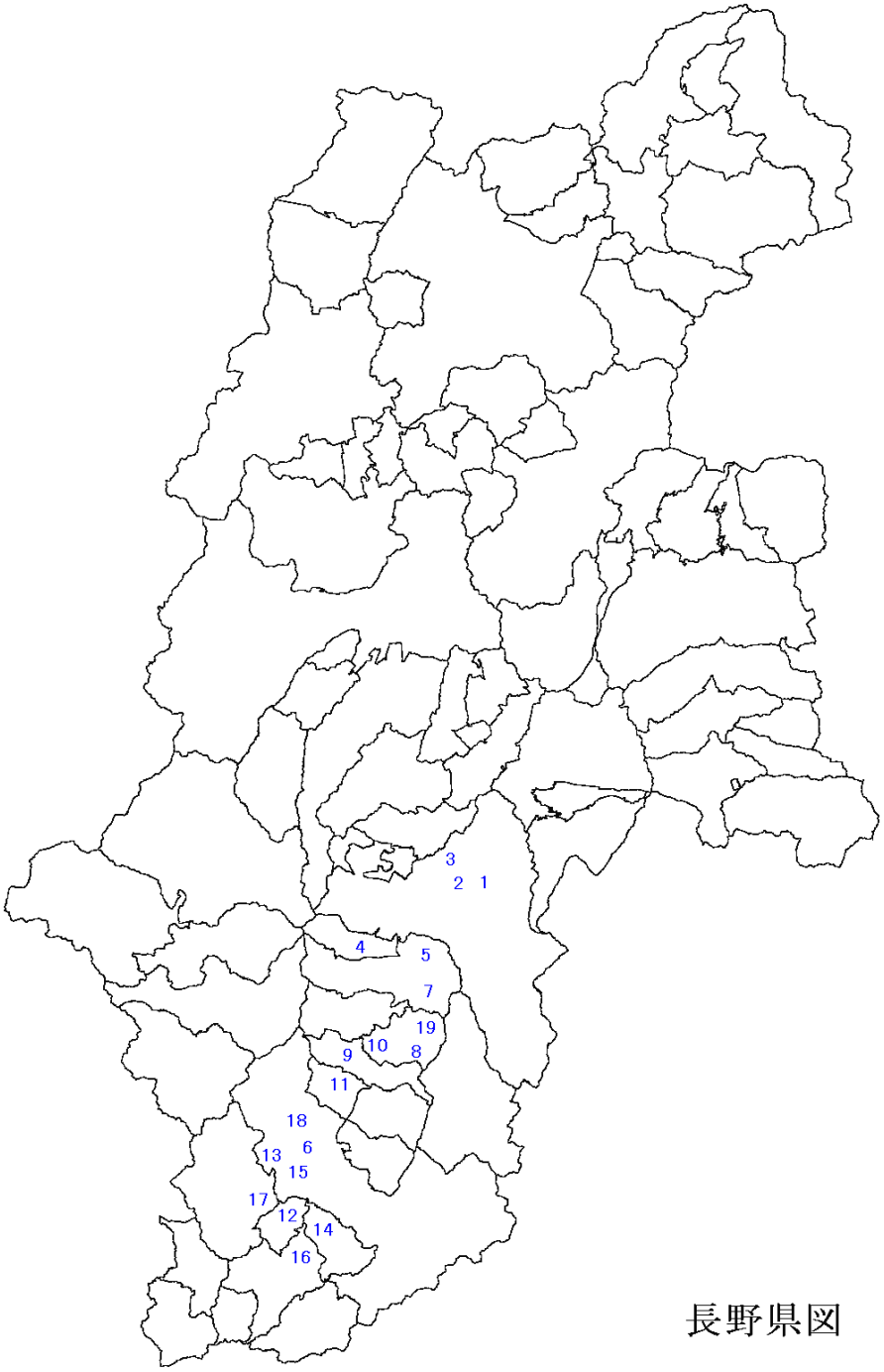
一ノ瀬武志

文久２年（1862 年)、井月が数え年で 41 歳のときに発行した俳諧集であり、俳句 137 句が収録されている。冊子ではなく一枚刷りで、鮮やかな紅葉（もみじ）と棗（なつめ＝茶道具のひとつ）が描かれている。おもに、井月が伊那谷を旅して集めた俳句が収録されている。

竹入弘元先生が解読し、『新編井月全集』に「まし水（仮題)」として収録している。筆者も一枚所有しており、竹入先生に差し上げたコピーが『新編井月全集』に載っている。

井月が『柳の家宿願稿（新編井月全集 p.463)』の中で「飯田におゐて紅葉の摺ものの挙あり」と記しているのは、これのことであろう。井月自身が『紅葉の摺もの』と言っているのだから、筆者もそう呼ぶことにした。

さて、『紅葉の摺もの』に出てくる場所を、地図にプロットしてみた。(長野県外の場所は省略)



長野県図

以下、片カッコつきの大きな数字は、地図上の位置を示すものであり、俳号の前に付されている小さな数字は、竹入先生が『新編井月全集』で付けた通し番号である。

0）県外の俳人（地図は省略）

ラク（洛）＝京都のこと

1 梅通、2 芹舎、3 公成

エト（江戸）

4 為山、5 卓郎、6 見外

ナニハ（難波）＝大阪のこと

7 鼎左、8 素屋

ヲハリ（尾張）

9 梅裡、10 素陽、11 阿籟、12 右橋、13 籟一

ミカハ（三河）

14 塞馬、15 義玄、16 東石

ミノ（美濃）

17 石斎、18 露牛

ウンカク（雲客）＝各地を行脚した俳諧師のこと

19 桃五、20 幽香、21 史山、22 野外、23 未古

史山＞長野県俳人名大辞典によれば、長野市の人で、関西で活動した。『家づと集』484 には「仏ト」とあり、善光寺の仏徒だったのだろうか。

野外＞井月全集 p.207 によれば、武蔵野の人で、伊那谷に来て中川村の田島にとどまった。

1）伊那市高遠町

タカトヲ（高遠城下）

24 可都羅、25 李山、26 元堂、27 升女、28 蛙鳴、29 晒蛙、30 太由、31、花好、32 孝月、33 春池

可都羅＞長野県俳人名大辞典には可都良で載っている。辰野町平出に可都羅という人がいたようだが、別人だろう。

花好＞長野県俳人名大辞典には飯田市久米とあるが別人だろう。

小ハラ（小原）

34 紫川

山タ（山田）

35 雪庭、36 月山

2）伊那市美篶

大シマ（大島）

37 亀生、38 月山、39 自唱、40 春山、41 春水、42 梅関、43 里石

梅関＞井月全集 p.358 には美篶末広とある。末広は、大島からの開拓者によって作られた村。

川テ（川手）

44 松羅

アヲシマ（青島）

45 柳川、46 花山

3）伊那市手良
中ツホ（中坪）
47 礎拙

4）上伊那郡宮田村
ミヤタ（宮田）
48 山圃

5）駒ヶ根市東伊那
火山（かざんではなく、ひやま）
49 杯雀、50 中皐、51 柳春、52 若翠、53 柳緑、54 中泉、55 二鳳、56 的山、57 招月、58 春鶴、59 月都、60 東斎、61 竹人
シホタ（塩田）
62 玉椿、63 可明
クリバヤシ（栗林）
64 吐月、65 如柏、66 竜水
イナムラ（伊那村）現在の伊那市中心部のことではないので注意。
68 野笛、69 貫一、70 笛船、71 扇風、72 如帆
野笛＞『家づと集』140 では高トホ（高遠）となっているが、これは別人だろうか。
伊那村という名称は注意を要する。もともと伊那村は、高遠藩中沢郷十五ケ村の一つであった。中沢郷とは、現在の駒ヶ根市中沢だけでなく、もっと広範囲の、東伊那や富県まで含んだ地域である。ところが明治 7 年、現在の伊那市中心部にも伊那村が誕生し、伊那村が 2 つ存在する状態になった。明治 8 年、中沢郷の伊那村は、火山村・塩田村・大久保村・栗林村と合併して東伊那村になった。明治 30 年、伊那村が伊那町に改称すると、今度は東伊那村が伊那村に改称。時代が下って昭和 29 年、伊那町が合併によって伊那市になると、伊那村は駒ヶ根市に合併し、東伊那地区となる。『紅葉の摺もの』の時代の「イナムラ」は、もちろん高遠藩中沢郷の伊那村である。

6）飯田市鼎（ここに飯田市が出てくるのは順番が変だが、ほかに該当する地域が思い当たらない）
山ムラ（山村）
67 白暉
白暉＞長野県俳人名大辞典に、飯田市鼎町山村とある。明治 8 年に山村・名古熊村・一色村が合併して鼎村になった。

7）駒ヶ根市中沢
タカミ（高見）
73 野月、74 雀鳴、75 雲台、76 扇風、77 春柳、78 梅月

8）上伊那郡中川村大草

大クサ（大草）

79 梅義、80 梅城、81 三程、82 帑鼠、83 喜春、84 可風、85 菊月、86 田居、87 竹城

三程＞長野県俳人名大辞典には三呈で載っている。『越後獅子』177、『家づと集』227 にも三呈で載っている。同一人物か。

9）下伊那郡松川町

アライ（新井）元大島新井。伊那市の荒井ではないだろう。

88 松仙、89 茂松、90 如竹

大シマ（大島）伊那市美篶にあった大島村ではないだろう。

93 素定

１０）上伊那郡中川村片桐

片キリ（片桐）

91 楚年

片桐は、かつて「片桐七ケ村」と呼ばれた、上伊那郡中川村、上伊那郡飯島町、下伊那郡松川町にまたがる地域。ここでは中川村と仮定したが、間違っているかもしれない。

タシマ（田島）

123 坂雅、124 石坡、125 完斎

１１）下伊那郡高森町

シン田（新田）

92 望岳

新田という地名は、あちこちにあるので特定が難しいが、長野県俳人名大辞典に高森町新田と載っているので、それに従った。

山フキ（山吹）

94 祭魚

１２）下伊那郡下條村

下シヤウ（下條）

95 青坡

１３）飯田市山本

山モト（山本）

96 やな女、97 梅里

１４）下伊那郡泰阜村

カラカサ（唐笠）

98 梧芳

マンハ（万場）

99 いと女

カトシマ（門島）
109 馬丈

１５）飯田市竜丘
川シ（川路）
100 月左、101 芙石、102 梅樵、103 大圃、104 琴里、105 初楽
トキ又（時又）
106 白雅
タシナ（駄科）
107 一笑
キリハヤシ（桐林）
108 洞泉

１６）下伊那郡阿南町（あなんまちではなく、あなんちょう）
オンサハ（恩沢）
110 葵悠

１７）下伊那郡阿智村
クリヤ（栗矢）
111 武栗

１８）飯田市飯田
イゝタ（飯田城下）
112 圭布、113 巴丈、114 欣祇、115 赤峨、116 素星、117 梅枝、118 素仙、119 稀星、120 穂浪、121 鳩山、122 精知
圭布＞『余波の水くき』160 には圭斎で載る。下伊那郡阿智村の人だが、のちに飯田に住んだ。
精知＞江戸の人だが、一時期飯田に住んでいた。

１９）上伊那郡中川村四徳
シトク（四徳）
126 樵雨、127 遊柳、128 米月、129 雅卜、130 思耕、131 菊麿、132 三休
飯田のあとに中川村が出てくるのは不思議な感じがするが、おそらくは、井月を取り巻くコアな支援者たちであり、それで最後に載せたのだろう。なお、四徳は昭和 36 年の水害で全戸移住したため、現在は集落が存在しない。

００）地名のない巻末の人。おそらく、この俳諧集の制作に関わったスタッフメンバーであろう。
133 桂雅（中川村四徳）、134 清暉（中川村田島）、135 烏孝（中川村四徳）、136 斧年（中川村田島）
雲水（各地を歩き回る行脚俳人のこと）
137 井月